

RMA Plus



第26号
2026/7/1
一般社団法人 RMA

CONTENTS

- SNS時代の危険性と4つのロス（その1）…… 宮川 雅明 2
- 新規開設セミナーのご紹介 …… 5
- RMA 2026年度セミナー開催予定表 …… 6
- 事務局だより …… 10

SNS時代の危険性と4つのロス（その1）

～中間層の減少～

一般社団法人RMA理事
一般社団法人 ネット情報信頼性機構 代表理事
経営コンサルティング会社 代表取締役
元）英国国立ウェールズ大学トロント（UWTSD）大学院特定教授
宮川 雅明

日本経済新聞 2026 年 6 月 10 日から 3 日間連続で「新しい大衆の姿」が掲載された。2026 年 5 月 29 日に「情報民主主義と情報リテラシー ～ポストトゥルースとアイデンティティ～」が出版された。
大衆の形成が SNS によって変化していることは、社会経済だけでなく、政治の世界でも認識されている。

ポストトゥルースとは何か

ポストトゥルースは 2016 年、オックスフォード英語辞典の「今年の言葉」に選ばれた。この年はアメリカ大統領選挙やイギリスの EU 離脱（ブレグジット）で注目をあびた時期だった。

「客観的な事実よりも、感情や個人の信念が世論に強く影響する状態」を意味する。
例えば、科学的なデータや証拠があったとしても、自分が信じたいこと、理解したいこと、当初から肯定したいこと、つまり、自分の感情に合う情報を優先してしまう。

政治において、事実よりも感情的なスローガンが支持を集める。或いは、フェイクニュースが、信じたい人たちの間で拡散されるといった状況をいう。

理性的で具体的な討議より、感情的な反応が優先され、そして増幅してしまう特性があることを、伊藤昌亮（成蹊大学教授）はデータ分析から鋭く指摘している（日本経済新聞 個人の感情的な反応優先 2026 年 6 月 12 日）。

人は自分の信じたい情報だけが届く、つまりエコーチェンバーの状態になってしまう。結果、フェイクニュースは嘘というものから事実性を攻撃するものへと変わる。

このポストトゥルースと確証バイアスと呼ばれるものは密接に関係している。確証バイアスとは、人は自分の信じたいことや既に持っている信念に合致する情報ばかりを集めたり、信じたりする傾向があることをいう。アルゴリズムがその背景にある。

この確証バイアスが積み重なると、ポストトゥルース的な社会が形成されることになる。コロナ禍の際、SNS で「ワクチンは危険」と信じている人は、その信念に合う情報ばかりをシェアし、反対意見は「陰謀」として切り捨てる（皆そうだとはいわないが）。

この傾向が強まると、事実よりも「自分の信じたい物語」が広まり、社会全体がポストトゥルースの状態に近づいていく。そしてそれは以下の社会的問題をはらむことになる。

- 対話が成立しにくくなる。事実を共有できないと、議論や合意形成が難しくなる。
- 社会的分断が進む。ある主張を信じるグループが、信じないグループと対立しやすくなる。わかりやすい議論のようにみえるがリスクをはらむ。
- 科学的判断や論理的な分析或いは多様な見解、少数だか価値ある意見が、感情によって左右されてしまう。結果、合理的な判断が通りにくくなる。
- 事実と意見の区別がつきにくくなり、SNS で誰かが発信した感想レベルの意見などが、事実のように錯覚してしまう。

・ 事実や背景など関係なく、感情に訴える情報が拡散しやすくなり、偏った感情や怒り、或いは恐怖をあおる投稿が、客観的で多様性のある冷静な分析よりも注目を集めやすくなる。

情報過多

スマホは一人 1 台、それ以上の時代かもしれない。ニュース、日常のコミュニケーション、仕事の連絡、学校からの案内、緊急時の連絡、学習教材そしてゲームや溢れる広告、そして AI。スマホを持たないと不安でたまらない。社会インフラを通り越して最も身近な存在になっているようだ。

こうした情報過多の状態は何をもたらすのだろうか。スマホや SNS が社会化する以前から指摘されている。

スタンレー・ミルグラム（1933 年– 1984 年）は、都市では人はあまりに多くの刺激や情報にさらされるため、すべてに反応していたら精神的に持たない。だから、無視や選択的注意が“適応的な戦略”として働くとした。

人は情報が多すぎると、一部を無視することでバランスを取ろうとする。情報があふれる環境やネットの中で生きるには、「聞かない力」や「見ない選択」が必要になる。

ハーバート・サイモン（1916 年 – 2001 年）は「情報が豊かになると、それを処理する注意が希少資源になる」と述べた。情報経済において「アテンション（関心）」が通貨のように取引されると予言した。そして、情報の豊かさ＝注意の貧困という逆説的な構図を指摘した。

現代はアテンション・エコノミーの時代と言われる。このアテンションの危険性については、山腰修三（慶応義塾大学教授）はデータを収集することを最優先とする新たな資本主義の原理が、現代的な大衆＝マスを生み出し、アテンションの習慣的獲得を行い、炎上や論争など対立や分断が正当化されると指摘している（2026 年 6 月 10 日 日本経済新聞）。

ニクラス・ルーマン（1927 年 – 1998 年）は社会システム理論の中で、「世界は複雑すぎるから、システムは意味を選別して処理する」と指摘した。これもまた、情報を“無視”することを意味している。例えば、経済のシステムなら「利益に繋がるかどうか」、教育なら「理解できるかどうか」で情報を選別し処理する。それぞれのシステムが自分流の選別の物差しを持ち、その物差しに合わない情報は見ないか、無視をする。

この「無視すること」は、怠慢ではなく、生きるための戦略といえる。全ての情報に対処することは物理的に不可能であり精神的にも破綻をきたす。よって、必要な刺激だけを受け取って、他はスルーする。社会システムも同様で「意味の選別」を通じて、「自分の機能」を保っているといえる。

中間層の減少

グローバル経済の浸透によって、先進国では上位 1%に富が集中する構造になってきた。日本のジニ係数をみても、調査を始めた 1962 年以降、最悪となった。経済格差が広がっている。いわゆる、バーベル型経済である。

中間層の減少は社会を不安定化させると、田辺俊介（早稲田大学教授）は指摘している（2026 年 6 月 11 日 日本経済新聞「思い込み」加速させる構造）。何故、問題にするかといえば、SNS 時代が中間層の減少と絡み合って社会の不安定をもたらすと考えられるからである。

地方創生という言葉も聞きなれた言葉であるが、どうなったのだろう。今はコンパクトシティ構想、スマートシュリンクという方向に動いているように思える。これらの方向性については言及しない。

先ず、何故、地方と都市の格差が出るのか、何が問題なのだろうか。

（1）雇用機会の偏在

都市圏には IT や金融といった高付加価値産業が集中している。よってビッグカンパニーも多い。比較的高収入の会社が多い。それに付帯する仕事も多い。

一方、地方では製造業や農林水産業、サービス業が中心で、賃金水準が低めになる傾向がある。すると、地方の中間層が都市に流出する。地方では高齢者と

低所得層が残りやすくなる。しかし、都市でも生活コストが高いことも忘れてはいけない。

（2）人口流出と地域経済の縮小

若年層や働き盛りの人々或いは若い女性が都市に移動すると、地方の消費や税収が減少し、地域経済が縮小する。これが雇用の機会減少を招き、中間層の維持が難しくなる。

（3）教育・医療・インフラの格差

都市圏では教育や医療、交通インフラが整っている一方、地方ではこれらのサービスが縮小傾向にある。教育、医療、通勤また水道などのインフラ（コストを含む）などに不自由さなどを感じれば、人的資本が集まりにくくなり、中間層の再生産が困難になる。

都市と地方の問題は場所だけの問題ではない。都市ではデリバリーサービスを頻繁にみる。こうした非正規雇用（皆がそうとは限らない）やギグワークが増えることで、中間層が下方に押し出されることになる。つまり、都市と地方の格差は、単に「場所」の問題だけでなく、雇用形態や産業構造の変化とも深く関係している。

地方と都市の経済格差は、中間所得層の減少に繋がっていると考えられる。現在、地方の衰退と都市の過密が同時に進行している。これは構造的な問題であり、深刻化する傾向にある。結果として社会全体の中間層が薄くなり、格差の固定化や社会の不安に繋がるリスクとなる。

何故、中間層が社会の安定に繋がるのか。それは中間層の重要性を意味する。

（1）中間層は、消費の主役であり、税収の柱でもある。例えば、GDP の多くを占める消費の主役である、納税によって社会保障を支える。

（2）社会の「共通基盤」をつくる

中間層が厚いということは、生活水準や価値観が、ある程度共通或いは共有されているので、社会の一体感や信頼感が生まれやすいと考えられる。極端な対立や分断が起きにくくなる。

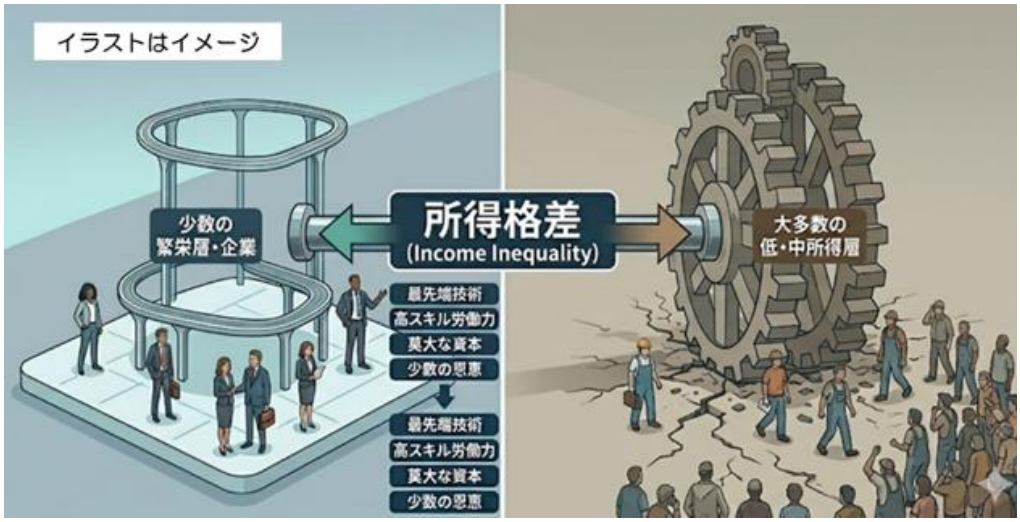
（3）多様性の土壌になる

中間層が豊かだと、教育や文化或いは創造的な活動へ、お金と時間を投資する余裕が生まれると考えられる。例えば、子どもに多様な学びの機会を与えられる。また、スポーツなどの地域活動や環境活動或いは芸術などに参加することによって、他者との多様な繋がりが生まれる。

こうしたことは、多様性を育む機会であり、新しい価値観やライフスタイルを受け入れる可能性があることを示す。よって、多様な生き方が育つ社会の土壌になるといえる。

中間層が減少する、疲弊するということは、上記3つの社会的重要性が減少していくことを意味する。そこに、SNS 時代がもたらすであろう社会の分断が重なり合う。

（次号に続く）



新規開講セミナーのご案内

2026 年度 9 月に開講する新規セミナーをご案内します。



化学分野に特化した ISO/IEC 17025 Advanced コース



化学分野に特化した ISO/IEC 17025 セミナーの advanced コース(オンライン)を新設します。かねがね専門分野に特化した ISO/IEC 17025 セミナーのご要望があり、この度、**化学分野に特化した Advanced コース**を作りました。環境や食品の試験分析機関の登録で求められる業務規定は、ISO/IEC 17025 要求事項から読み解くと至極当たり前のこととなります。本セミナーでは要員、施設・設備、トレーサビリティ、不確かさなどを化学分野の事例に則して ISO/IEC 17025 を解釈し妥当性の確認をします。

◆セミナー名称◆

第 1 回 一歩進んだ ISO/IEC 17025 の活用（化学分野 Advanced コース）

◆開催日時◆

2026 年 9 月 4 日（金） 13:30～16:30 オンライン（Zoom）

詳細はこちら👉 https://rma.tokyo/seminar_detail/201



新講師による新しい不確かさセミナー



不確かさセミナー講師として、新進気鋭の**髙井絢之介講師**が新たに加わります。
講義と演習を組み合わせ、実際に演習問題を解くことにより不確かさの理解を深めます。Excel を用いて自分で演習問題を解いてもらいます。演習・解説・議論を通じて、分からないところを講師に直接聞き、よく分からないでやっていた計算を理解できるようになります。曖昧だった不確かさの概念が測定結果をまとめる上で重要な意味を持つことが分かってきます。

◆セミナー名称◆

演習から深める不確かさ評価の基礎セミナー

◆開催日時◆

2026 年 9 月 18 日（金） 10:00～17:00 対面型・東京開催

詳細はこちら👉 https://rma.tokyo/seminar_detail/205

RMA 2026 年度 対面型セミナー 開催予定表 1/2

※ 諸事情により日程は変更する場合がございます。

No.	対面型セミナー ※3か月前からお申込み可能となります	会場	受講料（消費税込）		2026年度											
					2026年									2027年		
					上期						下期					
			会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
規格解説セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	第81回 ISO/IEC 17025 規格解釈と運用セミナー（東京） “要求事項の解釈はこれでいいの？—判断の難しい事例を踏まえて”	東京	¥33,000	¥66,000			6/30									
2	第82回 ISO/IEC 17025 規格解釈と運用セミナー（大阪） “要求事項の解釈はこれでいいの？—判断の難しい事例を踏まえて”	大阪	¥33,000	¥66,000						9/29						
3	第83回 ISO/IEC 17025 規格解釈と運用セミナー（東京） “要求事項の解釈はこれでいいの？—判断の難しい事例を踏まえて”	東京	¥33,000	¥66,000								11/5				
4	第3回 ISO/IEC 17025による試験所業務能力強化セミナー（東京） —ケーススタディで説明能力と説得力アップ—	東京	¥33,000	¥66,000				7/28								
5	第4回 ISO/IEC 17025による試験所業務能力強化セミナー（大阪） —ケーススタディで説明能力と説得力アップ—	大阪	¥33,000	¥66,000									12/8			
内部監査員養成セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	第121回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000		5/21 22										
7	第122回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（大阪）	大阪	¥66,000	¥132,000			6/16 17									
8	第123回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000				7/14 15								
9	第124回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000						9/15 16						
10	第125回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000							10/20 21					
11	第126回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（大阪）	大阪	¥66,000	¥132,000								11/10 11				
12	第127回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000									12/15 16			
13	第128回 ISO/IEC 17025 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000											2/16 17	
14	第7回 ワンランクアップ ISO/IEC 17025 内部監査員セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000							10/29 30					
15	第8回 ワンランクアップ ISO/IEC 17025 内部監査員セミナー（2日）（東京）	東京	¥66,000	¥132,000												3/11 12

RMA 2026 年度 対面型セミナー 開催予定表 2/2

※ 諸事情により日程は変更する場合がございます。

No.	対面型セミナー ※3か月前からお申込み可能となります	会場	受講料（消費税込）		2026年度											
					2026年									2027年		
					上期						下期					
			会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
試験技術セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	第5回 ISO/IEC 17025リスクから考える試験、不確かさとトレーサビリティ（東京） ー演習で学ぶ、試験の質管理、トレーサビリティと校正ー	東京	¥33,000	¥66,000								11/30				
17	第1回 試験所における計量トレーサビリティの確保と内部校正の利用（仮）（東京） ー 自己課題解決型演習セミナー ー	東京	¥33,000	¥66,000										1/21		
18	第1回 環境分析における精度管理と事例処理（仮）（東京）	東京	¥33,000	¥66,000												3/4
不確かさセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19	2026年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000				7/3								
20	2026年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー（大阪）	大阪	¥33,000	¥66,000				7/24								
21	第10回 基本モデル事例で理解する不確かさ演習セミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000									12/11			
22	聞いて、見て、やってよく分かる 2026 不確かさセミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000		5/29										
23	演習から深める不確かさ評価の基礎セミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000						9/18						
食品、微生物分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	第22回 食品・生物系試験所のための内部監査員養成セミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000								11/18				
臨床検査分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
25	第1回 ISO 15189:2022 規格概要解説セミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000			6/12									
26	第4回 ISO 15189:2022 内部監査員養成（JIS Q 19011準拠）＆マネジメントレビューセミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000				7/10								
27	第5回 ISO 15189:2022 内部監査員養成（JIS Q 19011準拠）＆マネジメントレビューセミナー（東京）	東京	¥33,000	¥66,000								11/27				
28	第3回 臨床検査室のための精度保証セミナー（不確かさを含む）（東京）	東京	¥33,000	¥66,000		5/23										
29	第6回 臨床検査室のためのリスクマネジメントセミナー（演習あり） ～ ISO 15189, ISO 22367をより理解するため ～（東京）	東京	¥33,000	¥66,000			6/20									
製品認証セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
30	第4回 ISO/IEC 17065 規格解釈と製品認証（東京）	東京	¥33,000	¥66,000						9/11						
31	第5回 ISO/IEC 17065 規格解釈と製品認証（東京）	東京	¥33,000	¥66,000												3/19

RMA 2026 年度 オンラインセミナー 開催予定 1/2

※ 諸事情により日程は変更する場合がございます。

No.	オンラインセミナー ※3か月前からお申込み可能となります	会場	受講料（消費税込）		2026年度											
					2026年									2027年		
					上期						下期					
			会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
規格解説セミナー																
1	第3回 はじめてのISO/IEC 17025(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000	4/21											
2	第4回 はじめてのISO/IEC 17025(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000							10/15					
3	第29回 知っておきたいISO/IEC 17025の基礎(担当者コース／Basicコース)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000	4/23											
4	第30回 知っておきたいISO/IEC 17025の基礎(担当者コース／Basicコース)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000			6/2									
5	第31回 知っておきたいISO/IEC 17025の基礎(担当者コース／Basicコース)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000					8/4							
6	第32回 知っておきたいISO/IEC 17025の基礎(担当者コース／Basicコース)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000									12/3			
7	第33回 知っておきたいISO/IEC 17025の基礎(担当者コース／Basicコース)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000											2/4	
8	第25回 一歩進んだISO/IEC 17025の活用(ラボ管理者・中堅要員ｺｰｽ／Advancedｺｰｽ)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000		5/14										
9	第26回 一歩進んだISO/IEC 17025の活用(ラボ管理者・中堅要員ｺｰｽ／Advancedｺｰｽ)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000				7/7								
10	第27回 一歩進んだISO/IEC 17025の活用(ラボ管理者・中堅要員ｺｰｽ／Advancedｺｰｽ)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000										1/19		
	第1回 一歩進んだISO/IEC 17025の活用(化学分野Advancedｺｰｽ)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000						9/4						
内部監査員養成セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	第16回 ISO/IEC 17025 オンラインによる内部監査員実践セミナー(2日) ― ロールプレイによる指摘演習 ―	オンライン	¥66,000	¥132,000					8/27 28							
12	第17回 ISO/IEC 17025 オンラインによる内部監査員実践セミナー(2日) ― ロールプレイによる指摘演習 ―	オンライン	¥66,000	¥132,000												3/25 26
試験技術セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
13	第5回 ISO/IEC 17025のキーポイントへの取り組みとマネジメント(半日) ―試験、不確かさとトレーサビリティ、リスクとマネジメント―	オンライン	¥16,500	¥33,000				7/31								
14	第1回 基礎から学ぶゲルマニウム検出器によるガンマ線スペクトロメトリ(演習あり)(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000			6/18									
15	第11回 試験所における計量トレーサビリティの確保と内部校正の利用(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000				7/23								
16	第9回 試験所(化学分野)における精度管理の基本的な考え方(半日)	オンライン	¥16,500	¥33,000						9/3						
不確かさセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
17	現場で役立つ 2026 不確かさセミナー：検量線・校正直線を用いた時の不確かさ評価	オンライン	¥33,000	¥66,000											2/5	

RMA 2026 年度 オンラインセミナー 開催予定 2/2

※ 諸事情により日程は変更する場合がございます。

No.	オンラインセミナー ※3か月前からお申込み可能となります	会場	受講料（消費税込）		2026年度											
					2026年									2027年		
					上期						下期					
			会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食品、微生物分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18	第3回 食品等の理化学試験結果が妥当であるための要件	オンライン	¥33,000	¥66,000			6/10									
19	第9回 微生物試験結果が妥当であるための要件	オンライン	¥33,000	¥66,000						9/9						
臨床検査分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20	第4回 ISO 15189:2022（JIS Q 15189:2026）規格概要解説オンラインセミナー	オンライン	¥33,000	¥66,000							10/9					
21	第4回 臨床検査室のためのリスクマネジメントセミナー ～ISO 15189, ISO 22367をより理解するために～（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000							10/23					
マネジメントセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
22	第15回 オンラインで学ぶラボラトリのリスクマネジメント（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000			6/23									
23	第16回 オンラインで学ぶラボラトリのリスクマネジメント（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000										1/26		
製品認証セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	第4回 オンラインで学ぶISOによる製品認証と認証スキーム（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000			6/19									
25	第4回 オンラインで学ぶISO/IEC 17065 製品認証とファンクショナル・アプローチ（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000								11/25				
検査機関セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26	第1回 ISO/IEC 17020:2026 規格解説セミナー（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000		5/28										
技能試験セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27	第1回 ISO/IEC 17043:2023：技能試験提供者として望まれること(仮)（半日）	オンライン	¥16,500	¥33,000							10/19					

セミナーお申込みは開催日の
約３か月前から可能です。
ご受講をお待ちしています！



事務局だより

RMA 会員年会費納入の御礼

2026 年度の RMA 会員年会費を納入いただきましてありがとうございます。本年度も内容を一層充実させたプログラムをお届けいたします。
多数のご参加をお待ちしております。

2026 年度のセミナー開催予定を掲載します

2026 年度の RMA セミナー（対面型、オンライン）を **8～11 ページ**に掲載しましたのでご覧ください。
なお、最新のセミナー開催予定は RMA ウェブサイトのトップページ（https://rma.tokyo）にございます、「セミナー」タグの「2026 年度セミナースケジュール」でご確認いただけます。
セミナーの詳細は各セミナーのご案内またはセミナーカテゴリーをご覧ください。



編集後記

編集作業をしている今は梅雨真っ最中で、事務局のある五反田は今日も雨が降っています。梅雨空を吹き飛ばそうという気持ちを込めて、天気の良い日に撮影した青空を表紙にしてみましたがいかがでしょうか。青空は恋しいですが、記録的猛暑はつらいです。そうならない夏でありますように。

RMAでは暑い期間も涼しい会場やオンラインで、新規セミナーをはじめ、多数のセミナーをご用意しています。皆様のご受講をお待ちしております。

事務局　編集担当　中澤

発行：一般社団法人 RMA
表紙写真：事務局職員撮影

東京都品川区西五反田１丁目11-1
アイオス五反田駅前 502号
03-6417-3400
jimukyoku@rma.tokyo
https://rma.tokyo